

岡崎の奇跡を生む力



岡崎市消防長
大竹 郁男 氏

近年、「南海トラフ地震」が大変危惧される中で、阪神・淡路大震災から二十二年、東日本大震災から六年、熊本地震から既に一年が経過しました。過去の記憶と貴重な教訓が、時間と共に薄れていくのは、断じて阻止しなければならぬと焦る気持ちも否めないと云えます。

皆さんは「BFC」と聞いて何を連想されますか。この組織について、どのくらいのことを御存知でしょうか。実は教職員の皆さんには、とても関わりが深い組織であり、その運営協議会長は教育長、副会長には小学校長会長や総代会連絡協議会長が就任されています。このクラブは歴史が古く、戦後の大改革によって生まれた新しい教育制度の中で、理科、社会、技術・家庭などの教科書の内容に、消防に関することが多く取り上げられるようになり、昭和二十六年七月、町内会における子供たちの火の用心夜回りから活動が始まったと言われております。現在、岡崎市のクラブ

教育随想



平成 29 年 8 月 1 日

8 月号

発行・編集
岡崎市教育委員会

今月の紙面

教育随想……………	1
岡崎市消防長 大竹 郁男 氏	
この人に聞く……………	2
コーヒー専門店 店主 柴田 貴幸 氏	
羅 針 盤 ……………	2
大門小学校長 武田 正道	
ふれあい……………	3
城北中 倉知 泰史	
特 集……………	4
主体的に避難できる 子供を育てる防災訓練	
お知らせ……………	6
フォト・ヒストリー…	8
組立体操	
(昭和 56 年)	
この本を……………	8

員は、小学校五、六年生から中学校の全学年で、クラブ数は市内小学校四十八クラブ、中学校二十二クラブで組織されています。御承知のとおり「BFC」とは、少年消防クラブの略称で、防火・防災教育の礎となる組織です。

幼少年期の記憶は、将来にわたって培われる貴重な財産です。この時期に消防・防災教育として危険予知や自己防衛、また、心肺蘇生法や人命救助法の習得など「自分の命を守る教育」、「人の命を重んじる教育」を日常的に繰り返していく重要性を、東日本大震災で語られる「釜石の奇跡」で教えられたような気がします。なぜ、「釜石の奇跡」と呼ばれた

のか。それは釜石東中学校の生徒が率先避難者となり、近隣の小学生や施設入居者を先導し、行政の設定した避難場所ではなく、より高い安全な場所を探して逃げることに成功した事例だからです。*正常性バイアスという脳のメカニズムを超えた判断力や想定にとらわれない思考力は、この時期にしか育めないのかもしれない。BFC活動を通じて未来の輝かしい社会を創造するために、強く優しい子どもたちの育成の一翼を担うことができれば幸いです。

(おおたけ いくお)

*非常事態に対して正常の範囲内と認識してしまう心の働き





終わりがないから

コーヒー専門店 店主

柴田 貴幸 氏

柴田氏は、空前のカフェブームの中、あくまでコーヒー「専門店」を貫き、コーヒーの味にこだわり続けている。メニューにはずらりと何十種類ものコーヒー豆の名前が並び、その味の特徴が詳しく、分かりやすく解説されていて圧巻だ。そんな専門店を立ち上げ、切り盛りしてきた柴田氏が、意外にも、もとは自動車関連の会社に勤めていたという。

「当時、自動車業界では海外進出が盛んでした。ところが自分の勤めていた会社は進出しないと決めていたのです。このままずっと働けるのか。本当にこの仕事でいいのかと思うようになりました。」

そのころ、よく通っていた岐阜で、

素敵なコーヒー専門店に数多く出会う。そして「こんな店をもてたら」と思うようになった。仕事を続けながら、三年間の準備期間を経て、ついに店をオープンする。しかし、その準備期間は決して平坦なものではなかった。

「当時、調理の専門学校はあっても、コーヒーに関して勉強できるところはほとんどなかったもので、厳しい状況でした。コーヒーのいれ方にしても、本を読んだり、他店を何度も見に行ったりして、そこで得た知識を試してみるしかありませんでした。」

柴田氏の試行錯誤は開店後も続く。「店を始めたころは、オーダーを受けながらコーヒー豆をひき、一杯ずついれるのを売りにしていました。でも本当にこれでもいいのかと思うようになり、自分でいれたコーヒーを飲んでいて、後味として残る渋さや強い味が気になったのです。もうちょっといい味を自分で作りたいと思って、豆の焙煎を始めました。しかし、いくら焙煎やいれ方を工夫しても、結局は火や湯を通すだけなので、原料の豆がよくなければ、出せる味は知れています。それで今度はいい豆を手に入れたと思うようになりました。」

今では中南米にあるコーヒー農園まで直接足を運び、収穫された豆の状態や味を、自らの目と舌で確かめ

てから仕入れている。

「コストをかけるからこそ、日本にいては手に入れられない、質の高い豆を買えます。これまでどおりでいいやと思えばそれまでだけれど、今よりもいいものをお客様に出そうと思ったら、徹底的にやるしかないと思うのです。」

現状に甘んずることなく、次の一歩を踏み出し続けてきた柴田氏に、そのわけを尋ねた。

「なぜでしょうね。追究していくと終わりがないからかな。」

笑顔で話す柴田氏に、ゴールはないのかもしれない。終わりをもたないからこそ湧き上がる情熱は今、後進の指導にも注がれている。柴田氏の背中を追うスタッフは、この六月、コーヒーテイステイキングの世界大会で見事二位となり、その意志を引き継いでいる。



氏名 しばた たかゆき
生年月日 昭和四十六年六月十六日
住所 岡崎市細川町



教員と褒めること

そして、レジリエンス

大門小学校長

武田 正道

すべての子供の自己肯定感が高まるように導くことは、学校現場に求められる、欠かすことのできない目標になっている。自己肯定感が高ければ、これから待ち受けているだろう、厚くて高い壁も、挑戦の気持ちで立ち向かうことができる子になるからである。

「褒めること」は、自尊心・自己肯定感の向上につながる。コーチング理論の中でも重要な因子になっている。そこで、「教員と褒めること」を考える。

ある程度、運動や勉強ができ、学校生活で褒められる経験が多かった人が、教育現場には多いように思う。褒められる経験は多かったとしても、「褒める」経験は多くなかったかもしれない。よって、意図して「褒めること」をしていかないと、「褒めること」



共に喜び、共に成長する

城北中
倉知 泰史

ヘルメットを地面に投げつけた。チャンスで凡退したからである。野球部員であるA男は負けを認められず、うまくいかない地面を蹴飛ばす、道具に当たるなど、感情を抑えることができなかった。負けている試合では、内野ゴロを打つても真剣に走らず、自己中心的なプレーをすることが多かった。A男の行動は、チームにも悪影響を与え、A男の他にもバットを投げたり、道具に当たったりする生徒がいた。

「キレて暴れても絶対に上手くはない。悔しかったら練習するんだ。」と何度も諭した。それでもなかなか我慢できず、荒れることもあった。そんなときは、その瞬間に指導することを心掛けた。「負けず嫌いは悪くない。その気持ちを練習に向けなさい。」

と話を繰り返すうちに、指導する回数が徐々に減ってきた。それと同時に、チームの成績も上向きになってきた。その原因についてA男に聞くと、チームの雰囲気が悪くなったことを挙げた。

「最近、気持ちをコントロールできるようになったな。それも大きいぞ。」A男にそう話すと、うれしそうに笑った。A男の変化に伴い、チームも確実に変わってきた。そんなA男に、チームの副キャプテンを任せることにした。責任ある立場にすることで、自分のことだけでなく、チーム全体のことを考えるようになってほしかったからである。しかし、副キャプテンとして迎えた新人戦で、思うように打てなかったA男はまたふてくされた態度をとった。理由を聞くと、「おれのせいで負けたんだ。」と肩を落とし、グローブを地面に投げつけた。そんなA男に、

「お前一人で試合をしているのではない。副キャプテンとして、どうしたらチームが勝つことができるのかを考えることが重要じゃないか。」そう語り掛けた。うつむき、ぐっと唇をかみしめて地面をにらみつけるA男がいた。

新人戦が終わり、冬のトレーニングに入った。結局、チームとしては良い成績を一つも残すことができず、このままではだめだという雰囲気を

チーム全員が感じていた。A男も何かを変えなければならぬと、一生懸命練習に取り組むようになり、荒れることは激減した。

冬は、厳しいメニューを与え、諦めずにやりきる心を育てたいと考えた。精神的にも肉体的にも辛いトレーニングであったが、A男は誰よりも意欲的に取り組んだ。そんなA男を認め、褒める機会を増やした。そんな練習を繰り返していくうちに、自分のプレーよりも、チームについて語る姿が見られるようになった。

冬が明けて最初の大会。初めて上位に食い込み、三位の成績を収めた。地道に声を掛け続け、目標に迫るための練習メニューを設定し、成果を認め、共に喜ぶことを繰り返す。これが生徒の成長につながると、A男とグラウンドで過ごした熱い日々が、私に教えてくれた。



が上手になれない。教員にありがちなのは、できるのは当たり前という考えである。「褒める基準」はどうしても高くなり、「褒めること」を見つけることが苦手になってしまう。

褒め方の一例をあげる。落着きに欠け、トラブルが多い子供は、なかなか褒めるチャンスがない。そのなりにトラブルの度に「我慢しよう」と努力している。だが、我慢しきれずに結果的にトラブルになってしまうことがある。この結果だけで教師が対応すると、そのトラブルは減らないことになる。トラブルにおける我慢の過程をつかめば、この子なりに我慢したことを褒めることができる。「我慢する時間が長くなったね。そうやって我慢しようとしたんだね。すごい」と褒めることができる。こうした声掛けが、子供が変化するきっかけになる。

今、逆境に立ち向かう力、レジリエンス（しなやかな心）が注目されている。この力は、ライオンが我が子を谷に突き落とし養うという力ではない。折れないように受け流す力も含めた強い心が、レジリエンスである。逆境対応能力を鍛える名目で、かなり目標を高めに設定し叱咤激励することがある。しかし、しなやかな心は、「褒めること」で、十分に養えることができる。考える。

やはり、褒め方次第である。

主体的に避難できる 子供を育てる防災訓練



▲青少年赤十字の「家まですごろく」で災害疑似体験をする（甲山中）

東日本大震災以降、近年の災害から、私たちは多くの教訓を得てその対応の在り方を学んできた。突然の災害に対して、自ら判断し、自ら行動して身を守る子供たちを育てる必要が高まっている。

岡崎市においては、学校や地域で子供たちの防災意識を高める活動が行われている。

学校では、いつ災害が起きても対応できるように、授業中だけでなく、休み時間に災害が発生することも想定し、避難する訓練も行われている。また、地域環境に合わせて、河川の氾濫を想定し、校舎の最上階に避難する訓練も実施されている。

一方、地域では、避難所を開設することを想定して、炊き出し訓練やAED訓練、初期消火訓練、避難所宿泊体験訓練等を行っている。子供たちも地域のの人たちと一緒に活動し、体験を通して自らの行動の在り方を学んでいる。

今後も、学校や地域の訓練を通して、災害時に正しい判断・行動ができる子供を育てていきたい。

自分の命を守る

学校で

三がいがあがったとき、本当にこんなことがあったら、こわいなと思いました。本当におきたらこわいけど、あせらずに三がいまでひなんして、自分のいのちを自分でまもりたいです。（2年児童）

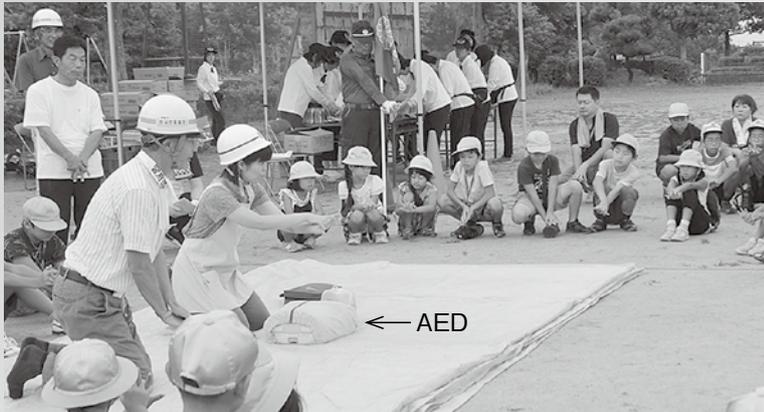


▲水害を避け、上階へ避難する（連尺小）



▲引率者無しでの避難（六名小）

周りの命も守る



▲ AED 訓練 (竜谷小)

地域防災訓練の中で、学区の自主防災の方々と共同し、炊き出し訓練、AED 訓練、初期消火訓練等、子供たちが多くを経験する機会を設けている



▲ 保育園、小学校との合同訓練 (六ツ美中)

隣接する保育園が平屋建て、小学校が3階建てのため、学区を流れる矢作川の氾濫を想定し、4階建ての中学校に避難する



地域で

避難所生活・運営を意識する



▲ 避難所運営体験訓練 (美川中)

避難者の個人情報を書かれたカードを、避難所の体育館や教室に見立てた平面図にどれだけ適切に配置できるか、模擬体験する

地域の防災訓練において、中学生が有事の際に機動力のある自転車を使って参加し、高齢者の安否確認をする役目も担っている



▲ 備蓄倉庫内の食糧の配分 (大門小)

避難所生活宿泊体験学習において、避難所のルール作りや、非常食での生活を学ぶ



▲ 段ボール製の椅子作り (三島小)

ぼくにとって初めての防災宿泊体験がはじまりました。暑い中、まきを使って火を起こし、炊き出しをしました。また、新聞紙や段ボールで作ったスリッパや椅子は、災害時に使えるなど思いました。

災害は起きてほしくはありませんが、もしもの時は、今回の体験を思い出して、あわてないで、自分にできることをしていきたいと思いました。

(6年児童)



▲ 地域の高齢者に炊き出しを届ける訓練に参加 (東海中)



● ハートピアだより

更なる連携強化に向けて

「自分自身は逃げることは嫌いなので克服したいと思っていきます。しかし、学校に行くことができません。それなら、できることから始めてみようと考え、ハートピアに行こうと決めました」

「学校に行く挑戦を何度かして失敗しています。そのときのショックは二度と味わいたくありません。だから基本的には、ハートピアで過ごしたいです。大きな行事やテストには必ず参加するつもりです。」
「自分の努力だけでは昼夜逆転がなかなか治らず苦しんでいます。そんな生活の中で、食事が一日一回しか取れなくなっています。ハートピアに来て一番やりたいことは、ご飯を食べることです。」
「学校には戻りたいです。同

じくらしいの子と活動がしたいです。」

これは、通所を開始する前の面談で子供たちが語った学校やハートピアに対する願いや決意だ。子供それぞれに、様々な思いをもっているし、苦しみ方も微妙に違っている。その思いを受け止め、学校に戻れるように支援をしていくことがハートピアの役目だろう。しかし、問題はそんなに簡単ではない。ハートピアだけでは、子供を学校復帰させることはなかなかできないということ。連携が必要である。学校・家庭・友達・ハートピアなどの連携こそが子供に力を蓄えさせることにつながるはずだ。
ハートピアでは、その連携をこれまで以上に推進していると考えている。その手始めに、ホームページを一新した。ハートピアのことをよく知らなかつたり、誤解をしたとらえ

方をしたりしている人もいる。ハートピアの目的や具体的な子供の活動などを紹介することにより、正しい理解の中でハートピアの活用が進められていくことを願う。OKリンクの教育施設の中にハートピアのホームページが入っている。



▲ ハートピア岡崎のホームページ

● 少年自然の家だより

七月は、計画されたプログラムが雨天案に変更されることとが少なく、各学校の目的が果たされている。満足した顔をして帰校する五年生の笑顔がとてもかわいくて印象的であった。

ところで、その五年生が山の学習を終える退所式で、お

礼の言葉を述べる。その言葉の中で、「二泊三日の思い出に、炊飯活動で作ったカレーライ스가おいしかったことを挙げることが多い。」

キャンプでの食事は、大人もおいしいと感じるが、それはなぜか。脳科学を研究している池谷祐二(薬学博士)によると、「安全な(屋内)で食べるより未知で危険な屋外で食べる方が快感である。普段とは違い、しんどい思いをして料理して時間がかった分おいしく感じるのではないだろうか」と述べている。

日本人にとって馴染み深いカレーは、いろいろな専門店もあれば、どんなレストランにもあるし、スーパーなどでもレトルトカレーが数多く置いてあり、定番中の定番である。そんな中、子供たちが寄り添って初めて作るキャンプのカレーは、実にうまく感じる。決してカレーの達人なんかいないに決まっているのに。

それは、炬づくり、巻き割り、ニンジンの皮むきやら、ご飯を炊くことなど、みんなが参画しているからではないだろうか。「作られたものを、出されて食べる」のではなく、

「自ら作ったものを食べる」ことがうまいカレーの隠し味であり、自然体験の素晴らしさである。
少年自然の家に来所した子供たちには、是非「しんどい思い」をして、おいしいカレーを味わってほしい。

● 表彰

- ◆ 全日本バレーボール小学生愛知県大会
 - 小学生の部男子
 - 三位 矢作南小学校
- ◆ 愛知県小学生相撲選手権大会
 - 二年生の部男子
 - 準優勝 本宿小 太田圭亮
 - 個人男子
 - 三位 常磐中 酒部源太
- ◆ 愛知県空手道選手権大会
 - 小学男子(新人戦)一の部
 - 優勝 本宿小 鳥居 昊
- ◆ NHK杯放送コンテスト愛知県大会
 - ラジオ番組部門
 - 優良(全国大会出場)
 - 新香山中 パソコン部
 - 六ツ美北中 文芸部
 - テレビ番組部門
 - 優良(全国大会出場)
 - 北中 メディア部
 - 朗読部門
 - 入選 北中 田中麻湖

●授業力・教師力アップセミナー

今年度も、夏季休業中に授業力・教師力アップセミナーが開催される。

「基礎編」については、下の表のように、十九の研修会が設けられている。

その前身は、各教科による夏期実技講習会が発展したものであり、岡崎の教師の研修として脈々と続いているものである。

「応用編」は、「岡崎市免許状更新講習」の選択講習と同じ内容で行っている。今年度は、八月三日、四日、七日の三日間にわたり、二十八の講座が設定されている。開講式の間は、全て八時五十分である。本セミナーを通して、基本的な知識技術を身につけ、次期学習指導要領を踏まえた指導内容・方法を理解し、教師としての専門性を高めてほしい。

◆平成29年度授業力・教師力アップセミナー【応用編】

【8月3日(木)】		
講習名	会場	講師名
小学校国語科教育	総合学習センター2F 教育研究室2	大西 裕子
中学校社会科教育	総合学習センター2F 教育研究室3	中西 勉
小学校算数科教育	総合学習センター2F 教育研究室1	稲垣 祐嗣
中学校理科教育	総合学習センター3F 教材開発室2	山本 則夫
小学校音楽科教育	竜南中学校 音楽室・図書室	柴田 知子
小学校図画工作科教育	子ども美術博物館 視聴覚室	赤崎 類子
小学校体育科教育	根石小学校 体育館・図書室	宇都木靖弘
中学校技術科教育	東海中学校 木工室・パソコン室	近藤 文彦
中学校英語科教育	総合学習センター3F 教材開発室1	伊奥田美智代
健康教育	総合学習センター2F 小ホール	鈴木 明
【8月4日(金)】		
講習名	会場	講師名
中学校国語科教育	総合学習センター2F 教育研究室3	磯村 彰久
小学校社会科教育	総合学習センター2F 教育研究室2	石原 真吾
中学校数学科教育	総合学習センター3F 教材開発室2	佐橋 康仁
小学校理科教育	総合学習センター2F 教育研究室1	荻須 文裕
中学校音楽科教育	矢作北中学校 音楽室・図書室	酒井 洋一
中学校美術科教育	子ども美術博物館 視聴覚室	安藤 眞樹
中学校保健体育科教育	根石小学校 体育館・図書室	清水佐知子
小・中学校家庭科教育	男川小学校 家庭科室・図書室	杉山 文子
小学校外国語活動	総合学習センター3F 教材開発室1	山本 和代
命の教育	総合学習センター2F 教育研究室4	蒲野 由紀
幼児教育	総合学習センター2F 小ホール	鈴木 晴美
【8月7日(月)】		
講習名	会場	講師名
道徳教育	総合学習センター2F 教育研究室1	清水 良隆
特別活動・学級経営	総合学習センター2F 教育研究室3	鈴木 誠
生活科・総合的な学習	総合学習センター3F 教材開発室2	船越 学
情報教育	男川小学校 パソコン室	本間 茂夫
発達障がい児の理解と支援	総合学習センター2F 小ホール	紀平 高之
生徒指導	総合学習センター2F 教育研究室2	中垣 明道
保健	総合学習センター3F 教材開発室1	浦野 公一

◆平成29年度授業力・教師力アップセミナー【基礎編】

月日	教科・領域	場所	開講式 閉講式
8/1	国語・書写	岡崎市勤労文化センター	9:00 12:10
8/1	社会	岡崎城周辺 二十七曲り 乙川河川緑地 りぶら301会議室	9:00 15:00
8/1	算数・数学	竜美丘会館(末広の間)	9:15 11:20
8/1	理科	翔南中学校	9:00 12:00
8/1	生活	総合学習センター (教育研究室2)	9:15 11:50
8/2	総合的な学習の時間	総合学習センター (小ホール)	9:10 12:00
8/1	音楽	総合学習センター (小ホール 教材開発室1・2)	13:00 15:30
8/1	図工・美術	おかざき世界子ども美術博物館 (視聴覚室)	9:30 12:00
8/1	保健体育	根石小学校(体育館)	9:00 12:00
8/2	技術・家庭科	ウッドデザインパーク	9:30 11:50
8/1	家庭科	常磐小学校(家庭科室)	8:50 12:30
8/1	英語	岩津市民センター (体育集会室)	9:30 16:00
8/1	道徳	ぬかた会館	9:15 11:50
8/1	特別支援教育	総合学習センター(小ホール):午前 岡崎盲学校・聾学校・特別支援学校	9:15 15:00
8/1	学習情報	新香山中学校 (パソコン室)	9:00 15:30
8/1	学校図書館	岡崎市図書館交流プラザ「りぶら」 (りぶらホール)	9:30 11:40
8/2	学校保健	地域交流センター六ツ美分館 悠紀の里(第4活動室)	14:00 16:20
8/1	生徒指導 (問題行動)	総合学習センター (教育研究室1)	9:10 11:40
8/2	生徒指導 (不登校)	岡崎市教育相談センター (3階プレイルーム)	9:15 11:45

- ◆中部日本吹奏楽コンクール
西三河北ブロック大会
- 大編成の部
金賞(県大会出場)
美川中学校
竜海中学校
- 小編成の部
金賞(県大会出場)
南中学校
新香山中学校
六ツ美中学校
翔南中学校
- ◆牧書会
中日新聞社賞
竜南中
野口菜々美
小宮 葵
- 中日新聞社賞
竜南中

・カ
ツ
ト
矢作北小 岩田恵子

組立体操 (昭和56年)

写真提供：東海中学校

組立体操は、三十六年前も体育大会の華であった。運動場全体に五人組の扇が木造校舎を背景に広がり、その後ろに新校舎や旧体育館を見ることが出来る。時代の移り変わりが感じられる。

今の東海中においても、「東風(とうふう)」と名付けられた組立体操に、三年生が男女混合で取り組んでいる。夏休みから実行委員が中心となり、安全でかつ見ごたえのある演技をどう完成させるかが話し合われる。

まもなく体育大会の季節がやってくる。安全確保のため高さ制限ができ、組立体操の内容が集団行動や集団表現に変わってきたが、美しさや統一感を求める思いは今も昔も変わらない。



ホットコーヒーと一口に言っても、豆の生産地や収穫年などによって味が変わるという。ワインのようだ。無数の違いに個々の良さを発見するからこそ、その世界に引き込まれていくのだろう。

子供たちと同じ。一人一人の良さを認める教師に終わりはない。

東海地震は、一六三年の間発生はなく歪みを蓄えたまま現在に至る。

今後遭遇するであろう災害に対して、子供たちが自ら対応策を考え、行動していく力が求められている。「釜石の奇跡」の事例に学ぶ中で、学校においても避難訓練に対する認識が変容している。

どホ

葉目 ツ



蜂と向日葵 (竜美丘小)

露草は蜜草とも呼ぶそうだ。青い二弁の花びらと黄色い花芯が、光りながら飛ぶ蜜に似ている。昔は、捉えた蜜と共に、花や葉についた夜露を吸うように露草も入れたかごを枕元に置き、蜜狩りの余韻とともに寝たそうだ。現代の子供たちにもそんな趣きを味わわせたい。



*アメリカ海軍に学ぶ「最強のチーム」の作り方 マイケル・アブシヨフ 三笠書房 ￥600

心に残った一文

「きみたち一人ひとりが艦長だ。」

「チーム学校」とよく言われるが、その中心はもちろん「チーム職員」である。

本書は、海軍で一番の駄目軍艦とレッテルを貼られていた駆逐艦ベンフォードに新任艦長として赴任し、同じスタッフ構成でありながら短期間で全米一と呼ばれるまでの優秀な艦に立て直した、著者のチームづくりの方法が語られている。

最強の「チーム職員」をつくる第一歩は、任せた校務分掌担当者一人一人に、その仕事のリーダーだという誇りと責任感をもたせることではないだろうか。

*仕事の成果は「目線」で変わる 岩松 松雄 ￥630
三笠書房

*1%の力 鎌田 實 ￥500
河出書房新社

*松下幸之助から未来のリーダーたちへ 松下幸之助 ￥650
アチーブメント出版

額田中 浦野 公一